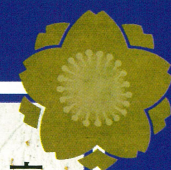


いまよみがえる大谷籌子裏方のこころの種



京都女子学園創立一二〇周年（創始一二二年）待ち受け企画展

大谷籌子裏方 京女への道程^{みち}

—— 人・時・思潮 ——

籌子

ちいさなこころ

まはるふとよ

たのしみ

はるあけ

あそび

あやめ

平成29年 五月二十日（土）

六月三十日（金）

午前10時～午後4時（ただし木曜日は休館）

会場

京都女子学園建学記念館
「錦華殿」

無料



大谷^{かずし}籌子裏方(明治十五年〜明治四十四年)は九條道孝の三女として生を享け、昭憲皇太后(明治帝皇后)が力を注がれた「華族女学校」に学んだ。生来の利発さに加え、常の努力によって本願寺第二十二世鏡如宗主(光瑞)の裏方として凛々しく温かく存在したことである。そんな裏方が居住したのが「錦華殿」であった。

「錦華殿」は歴代本願寺宗主の居住殿舎の名であったが、明治三十年初頭に洋館・和館を併せ持つ建物に建替えられた。九條武子夫人の『無憂華』^{のみ}「ちぎれ雲」章に

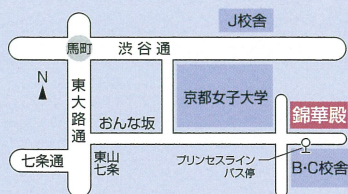
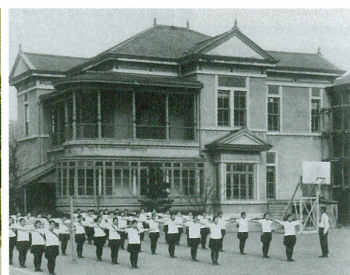
上の兄の帰朝期もほゞ予定されて、新邸の錦華殿は鑿^{のみ}の音がはげしく勇ましく響くやうになった。もの珍しい西洋館日に日に形造られてゆく。附属の日本建築も工事が同時に運んでいった。お清所はこゝ、呉服所はかしこの間^ま、こゝを鍵口にしませう。ター様のお部屋は二階の間がいゝ、でせうと、姉は私をつれて夕方大工が帰ったあと、必ず見に行く事を日課のやうにしてをつたし、又父に報告するのも二人の楽しみであつたもの。

(昭和三年七月、百七十二版に依る)

とあるのはこれである。

籌子裏方及び武子夫人は和館に居していた。しかし明治四十四年元旦、突然病惱を萌し、裏方は病床についたのである。同年一月四日頃になつて容態容易ならざるをもつて裏方が洋館に移り、洋館全体を医療所と為した。すなわち、裏方が女子大学創設を夢見ながら仏の国に旅発たれた建物こそ「錦華殿」に他ならない。

裏方は中肉中背よりもやゝ身の丈高く、足袋は九文半をめした。好物は柿と栗、椎茸は大のお嫌い。寒期には笹巻鮓・天婦羅・焼芋を好んで食された。「ジョン」(東宮より拝領)・「達子」・「ペス」名の三頭の犬を飼われた。



《アクセス》

- JR・近鉄「京都」駅より
 - ・市バス206系統・208系統・100系統で約10分、「東山七条」下車し、東へ徒歩約5分
 - ・プリンスラインバス「JR京都駅八条口」より約10分、「京都女子大学前」で下車
- 阪急「河原町」駅より
 - ・市バス207系統で約15分、「東山七条」下車し、東へ徒歩約5分
 - ・プリンスラインバス「四条河原町」より約15分、「京都女子大学前」で下車
- 京阪「七条」駅より
 - ・東へ徒歩約15分
 - ・プリンスラインバス「京阪七条」より約5分、「京都女子大学前」で下車

※駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

主催／京都女子学園
共催／京都女子学園 維持会

《お問い合わせ》

京都女子大学
宗教教育センター

〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町35
TEL:075-531-7074
<http://www.kyoto-wu.ac.jp>